

都市再生整備計画 事後評価シート
飯塚市中心地区

平成28年12月

福岡県飯塚市

4) 定性的な効果 発現状況	<p>○空き店舗の減少 ・商店街の活性化や魅力向上に向けての多様な取組みの結果、空き店舗数は減少しており、商店街全体としての空き店舗率は、計画期間前の平成23年(30.4%)から7.2ポイント減少し、平成28年では23.2%となっている。</p> <p>○市民の中心市街地に対するイメージの向上 ・来街者アンケート調査結果では、親しみやすさ、清潔感、便利、歩きやすさ、治安、住みやすさの観点からは、肯定的評価が否定的評価を上回っており、活気の観点を除く現在の中心市街地に対する印象は良いといえる。 ・同様の5年前の調査との比較では、活気、清潔感、歩きやすさ、住みやすさという項目で、改善が図られており、今回の中心市街地の活性化や整備の取組みで目指した賑わい創出や住みやすいまちづくりの面での効果が、まず市民の中心市街地に対するイメージの向上に現れているものと考えられる。</p> <p>○子育て支援や健康・交流の新たな都市機能施設の活発な利用 ・健康プラザや街なか子育てひろばは、計画当初の見込みを上回る利用者があり、中心市街地への新たな来街を促す効果があるものと考えられる。</p> <p>○商店街でのイベントへの来訪者の増加 ・商店街で開催されるイベントも増え、イベントへの来街者も増加している。特に、「飯まちキッズパークおもちゃ館」をはじめとした子育て世代向けのイベントが増加したことにより、これまで来街者の中心が高齢者であったの対し、子育て世代等の新たな層の来街が増加している。</p>
-------------------	---

		実施内容	実施状況	今後の対応方針等	
5) 実施過程の評価	モニタリング	「中心市街地内の居住人口」と「中心市街地の歩行者通行量」の指標値の計測・集計によるモニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	● ● ●	歩行者通行量は基本的指標であり、商工会議所が中心になり、継続して計測・集計できるよう協力・支援していく。
	住民参加 プロセス	①おかみさん会(女志会) ②コンパクトなまちづくりセミナー ③街なか交流・健康ひろばに関するアンケート調査、意見交換会 ※意見交換結果を都市機能施設の整備等に反映	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●②	①中心市街地の活性化に向けた様々な立場からの意見交換を促進していく。 ②今後ともまちづくりの意識の向上やまちづくりに関する機運の醸成に向けた取組の実施を検討していく。 ③今後とも施設利用者等の商店街のニーズ調査等を実施し、その結果を取組みに反映させていく。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●①③	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり 体制の構築	①株式会社まちづくり飯塚 ②永楽町商店会	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	● ● ●	①中心市街地活性化を担う組織に対して、今後も活動支援を行っていく。 ②活動の自立的、継続的な実施に対する支援など中心市街地の活性化の支援を行っていく。	

様式2-2 地区の概要

飯塚市中心地区(福岡県飯塚市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値			
大目標: 中心地区の賑わい再生と定住促進による中心拠点の形成 目標1: 民間活力を活用し、中心地区内の定住促進の受け皿づくりを促進する。 目標2: 交通拠点の整備及び歩行者空間の快適性を確保し、利便性と回遊性の向上を図る。	地区内の居住人口の増加	単位: 人/年	3,696人	H23	3,820人	H28	3,819人	H28
	中心商店街の歩行者通行量の増加	単位: 人/日	26,645人	H23	26,800人	H28	21,529人	H28



<p>まちの課題の変化</p>	<p>【商業環境の魅力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○商店街の個店の対策、商店街全体としてのマネジメントの実施、各種イベントや情報発信などの取組みにより、6商店街の店舗数は横ばいを維持し、商店街としての商業集積は維持されている。 ○空き店舗解消の取組みにより、空き店舗への新規出店もあり、計画期間前に比して空き店舗は減少している。 ○個店の魅力向上や集客力の高い店舗誘致に向けた取組みを推進し、ひいては商店街の魅力向上へとつなげていく必要がある。 ○健康をテーマとした商店街の特色づけや商品開発等は成果が現れるまでには一定の期間を要するため、取組みを継続していく必要がある。 ○子育て支援、健康・交流に関わる施設との連携や、それに合わせた商店街の取組みにより商店街の集客力を高めていく必要がある。 ○店舗誘致に加え、空き店舗を活用するとともに、新しく整備された都市機能施設を利用する来街者等のニーズを把握し、商店街に新たな魅力を創出することを検討する必要がある。 ○長期的には、地区内にある既存の商業施設等で老朽化が進んでいるものについて、その機能維持のあり方を検討する必要がある。 <p>【都市機能の維持・整備による交流・賑わいの場の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健幸プラザ、街なか子育てひろばなどの新たな都市機能施設の整備により、中心市街地は買い物に加え、健康・交流、子育て支援など交流・賑わいの場としての機能が充実した。 ○多様な都市機能による街の魅力向上の観点から、街なかギャラリーに代わる賑わいの創出の場を検討する必要がある。 ○市内に大学が立地する特性を生かして、大学生等若者の来街やまちづくりへの参画を促す都市機能整備や仕掛けづくりを行うことが望ましい。 ○健幸プラザ等と連携して、整備された飯塚緑道を活用し、健康づくりや賑わい創出の場としての利用促進を図ることを検討する必要がある。 <p>【住宅供給等による定住環境の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大規模な未利用地における再整備事業による分譲マンションや賃貸マンションの整備、街なか定住促進策の実施等により、新たな居住者の定住が進んでいる。 ○買い物環境に加え、子育て支援機能、健康・交流機能、医療機能など生活を支える都市機能の充実や地区内の安心・安全な歩行環境の整備が図られ、居住環境が向上した。 ○人口減少・高齢社会においては街なか居住の促進はコンパクトなまちづくりを推進するためにも重要な課題であることから、引き続き、街なか居住を促進していく必要がある。 <p>【商店街を軸にした回遊環境やアクセス環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中心市街地内の道路における安全・安心な歩行空間の整備により、中心市街地内の徒歩による回遊環境が向上した。 ○街なか循環バスの運行（試行）により、新飯塚駅や商店街など中心市街地内の施設間の回遊が容易になった。 ○コミュニティバスの運行により、市内の各地域から公共交通で中心市街地を訪れることができるようになり、公共交通によるアクセス環境が向上した。 ○地域拠点と中心市街地を結ぶコミュニティバスの利用者数は増加してきているが、利便性向上や運行情報の提供など、さらなる利用者数の増加に向けて検討を行う必要がある。 ○街なか循環バスは、本計画において試行運行が行われている。中心市街地内の回遊性向上の観点から、費用面等も勘案しながら、運行継続の検討を行う必要がある。
<p>今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画による効果を持続・発展させるとともに、残された課題や新たな課題に対応していくために次のような取組みを行っていく。 ● 買い物の場としての個店の魅力向上と商店街のマネジメントの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・集客力の高い店舗の誘致や創業支援、既存店舗の魅力向上を図る。 ・健康等を軸にした商店街の特色づけを図る。 ・商店街の将来ビジョンや魅力を高めるためのエリアマネジメントの強化を図る。 ● 多様な世代の交流・賑わいの場の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・若者の来街を促す都市機能の整備を図る。 ・空き店舗を多様な活動や交流の場として活用する。この場合、期間限定の活用を含む。 ・新たな都市機能施設（健幸プラザや街なか子育てひろばなど）と商店街が連携してイベント等を開催する。 ・飯塚緑道等を活用し、健康づくりや賑わい創出の場としての利用促進を図る。 ● 街なか居住の一層の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトなまちづくりの観点から街なか居住を推進し、区域内での住宅の新築や購入、空き家活用等を支援する。 ● 商店街を軸にした回遊環境やアクセス環境の維持・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・街なか循環バスやコミュニティバスの運行継続と利便性の向上を図る。